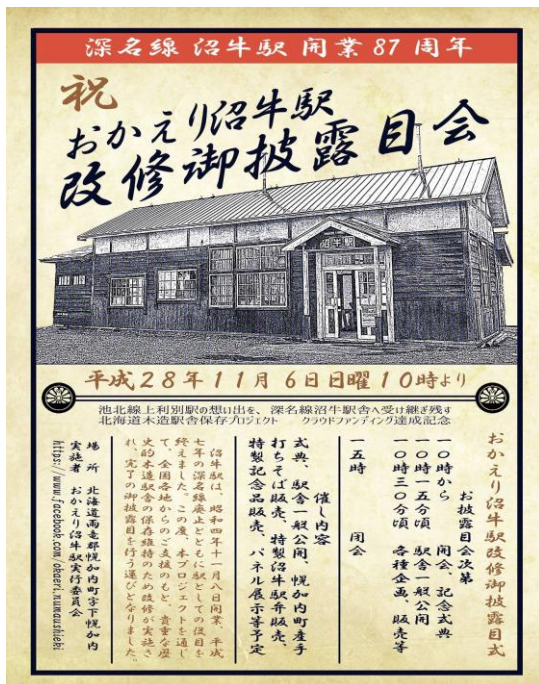


**沼牛駅改修御披露目会が開催**

幌加内町に現存する旧JR深名線「沼牛駅」の改修工事が終了し、11月6日「おかえり沼牛駅改修御披露目会」が開催され、記念式典、駅舎一般公開、特産の幌加内町手打ちそば販売、特製沼牛駅弁販売などの催しが行われました。

沼牛駅舎は当社が昭和4年に建造した縁から、50万円の寄付をしており「おかえり沼牛駅」の名誉駅長駅舎新築時施工として田中組の社名も木札掲示板に掲げられました。同模様は、北海道新聞の全道版、北海道建設新聞にも掲載され広くPRされました。



○パンフレット(表)



○パンフレット(裏)



○木札掲示板

2016年(平成28年)11月7日(月曜日)

【幌加内】上川管内幌加内町の旧ＪＲ深名線沼牛駅の改修工事が完了し、保存活用に取り組み実行委員会が6日、お披露目を同駅で開いた。工事には全国から寄せられた資金をあてた。雪景色の中、大勢の鉄道ファンらが往時の面影を楽しんだ。

沼牛駅は1959年(昭和34年)開設。実行委員は95年の深名線廃止から20年の昨年、貴重な木造駅舎を残そうと住民や鉄道ファンらが設立した。今年5月8日にインターネット上で募った改修資金は230万円となり、企業から寄付金や木材も提供された。

工事は6月から始め、土台や屋根、内装を改修。10年明

## 旧沼牛駅舎 感謝の再出発



幌加内 全国からの資金で改修

鉄道遺産の保存活用を目指して改修された旧沼牛駅

治33年)に開業して今年取り壊された旧ふるさと銀河線上利別駅舎(上川管内足寄町)の跡も受け継ぎ、切符売り場などに活用した。

お披露目会では細川雅弘町長がテープカットし、来場者は右足ストロップのある待合室や駅長家族が暮らした部屋、往時を伝える写真を熱心に見学した。駅舎は今後イベント開催などの際に一般公開する。

沼牛駅の雪下ろしなどを約20年間続け、同駅の名譽駅長になったワバ農家坂本勝之実行委員長(75)は「全国の皆さんの協力に感謝です。イベントも開催し、みんなが憩い集う駅舎にしたい」と話した。

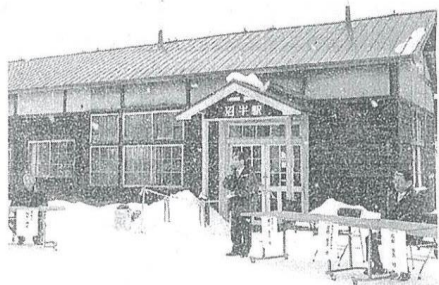
○新聞記事①

2016年(平成28年)11月8日(火曜日)

## 旧沼牛駅舎再生祝う

【旭川】おかえり、沼牛駅。クラウドファンディング(CFD)による資金調達が保存活動を展開していた旧ＪＲ沼牛駅舎の修繕が完了し、6日に幌加内町の現地でお披露目会が開かれた。細川雅弘幌加内町長をはじめ、町民や道内外の鉄道ファンらが駆け付け、築87年の木造駅舎の再生を祝った。

沼牛駅は1959年に開業したが、95年の深名線廃止に伴い、駅舎はそれから21年間、地元ワバ農家の坂本勝之さんが雪下ろしなどをして維持に努めてきたが、劣化が進行。何とか原形をとどめようと有志が集まってCFDを実施したところ、国内外172人や駅舎を建設した中組などから



生まれ変わった駅舎の前で、細川町長が祝辞を述べた

## 修繕完了し お披露目会

お披露目会では、限定の駅弁や記念乗車券などを販売。横濱から来たという男性は「2年ぶりに沼牛駅が見られてうれしい。木造の風合いが良い」と話していた。

今後は除雪や清掃イベント、年数回の一般公開観覧など、長期的保存活用を考えている。

当し腐食した土台や窓枠、屋根などを修繕。三津橋産業が木材を無償提供したほか、足寄町にあった旧上利別駅の廃材も利用した。

おかえり沼牛駅実行委員会の委員長を務める坂本さんは「古い建物を価値を見いだされて、若い世代の実行力やアイデアが素晴らしい」と感謝。「いよいよ解体かと思っていた。廃駅当時よりもきれいに生まれ変わったと喜んだ」。

○新聞記事②